

裾野麗峰山の会・山行報告書		文・写真 GT
山行NO.	NO. 1890	
日時	2020年10月24日(土) 晴れ、まあまあ涼しい	
山域	三ッ峠山(1785m) 東尾根	
コース	長泉 6:00 - 都留IC - 宝鉢山・一の橋 8:02 - 東尾根 - 第一鉄塔 8:23 - 第二 9:24 - 大久保山 11:24 - 最初のアンテナ基地 11:23 - 頂上 12:30~13:11 - 北口下山道 13:27 - 水雲山分岐 13:33 - 大幡川林道 15:08 - 北口登山道 15:20 - 一の橋 15:55 - 長泉 17:30	
標高差	上り 一の橋約620m~三ッ峠山1785m峰=約1165m 下り 同上	
藪漕度	上り=少しあり 下り=少しあり	
難易度	非常に困難 困難 レやや困難 普通 やや易しい 易しい	
<h2>長く厳しい東尾根だった</h2>		
参加者	後藤、加藤、星、合谷=4名	

懸案であった、三ッ峠山・東尾根を実行。涼しくなり上りやすくなった。都留ICを降りて、宝鉢山手前大幡川に架かる一の橋が登山口。駐車場は橋の脇にある。

8:02 発、林道を少し進み東尾根に乗る。最初からモーレツな急登。8:23、すぐ第一鉄塔があった。

9:24、第二鉄塔を通過。北に本社ヶ丸(1631m)が大きかった。日当たりがよく、辺りに「センブリ(干振)」が沢山あった。



登山口



第一鉄塔

女子班がワラワラと採取。女子班は先日、わざわざ乾徳山まで採りに行った。余リイイのがなかったとの報告だったが、こちらは大きく立派。「センブリ」は、胃腸の良薬。第二鉄塔の先で、先頭のKが「紫色のキノコ」を発見。ハッキリしないが「ムラサキシメジ」ではないかという。(結果、違った)



第二鉄塔（バックは、鶴鳥ヶ屋山）



本社ヶ丸

標高点・1179mを経て、東南尾根分岐の標高約1450mまでが、今回一番厳しい上りだった。急登の上、落ち葉・腐葉土がフカフカで歩き難いこと、はなはなだしかった。

これを上ると道は緩やかになり、美しい自然林が出てきた。先が大久保山（△1546m）だった。「つる山友会」の立派な看板に何と「登山道」と書いてあった。

ハッキリはしないが、2万5千円では、先ほどの標高約1450mの南東尾根下途中まで、西桂町・下暮地から道が伸びている。可能性があれば、この道が続いているのだろうか？？ 南東尾根の道は、「山レコ」を見たら、やはりあった。



大久保山手前



大久保山

標高点・1312mから大久保山に至っている。しかし、道は落ち葉でハッキリしなかった。大久保山からイイ感じの林相がつづく。ナラ系の樹木が多い。恐らく人の手は入っていないだろう。左下に人の声が聞こえた。

達磨石からの一般道と屏風岩方面からだった。屏風岩を俯瞰したかったが、ここからは見えなかった。ひと上りでパラボナンテナ基地が見えた。三ヶ峠山は、顕著なアンテナ基地。地図では4基ある。最初のもとは一番東のもの。

有刺鉄線に沿って反対側に回ると道路に出た。先の基地では工事人が20名くらい作業をしていた。唯一女性が1名いた。裏を上ると頂上だった。12:30、約4時間半掛かった。概ね標高差通りだった。

人が多くつまらない頂上。パイプを吹かしたキザなオヤジ・クライマーがいた。最近、パイプは珍しい。履物は「地下足袋」だった。あれで屏風岩を上ったのか??地下足袋は、つま先が利かないので厳しいが・・・。



パラボラアンテナ



やがて女子班も到着。ここで昼食にした。霧が湧いて展望はなし。富士山は全く見えない。22日は参加者Hの誕生日だったが、忘れて祝えなかった。Kが作った煮込みラーメンが美味かった。やっぱり、カップラーメンは美味くない。

ほどほどで下山。先ほどの工事基地に戻り、御巢鷹山に向かう。こちらは嘘のように登山者はいなかった。

御巢鷹山付近は、紅葉が良かった。静岡県東部にはない、赤が鮮やかだった。紅葉は、黄色でなく、やっぱり赤がイイ。御巢鷹山手前で北口下山道に入る。

北口下山道を下るが、今日の最終目的は、「水曇山」だった。この山(岩峰)は、地元、山梨山の会K氏のお勧めだった。何回も来る山ではないので、行ってみることにした。下山道を下って行くと、右・北口下山口、左・水曇山の道標があった。



御巢鷹山付近

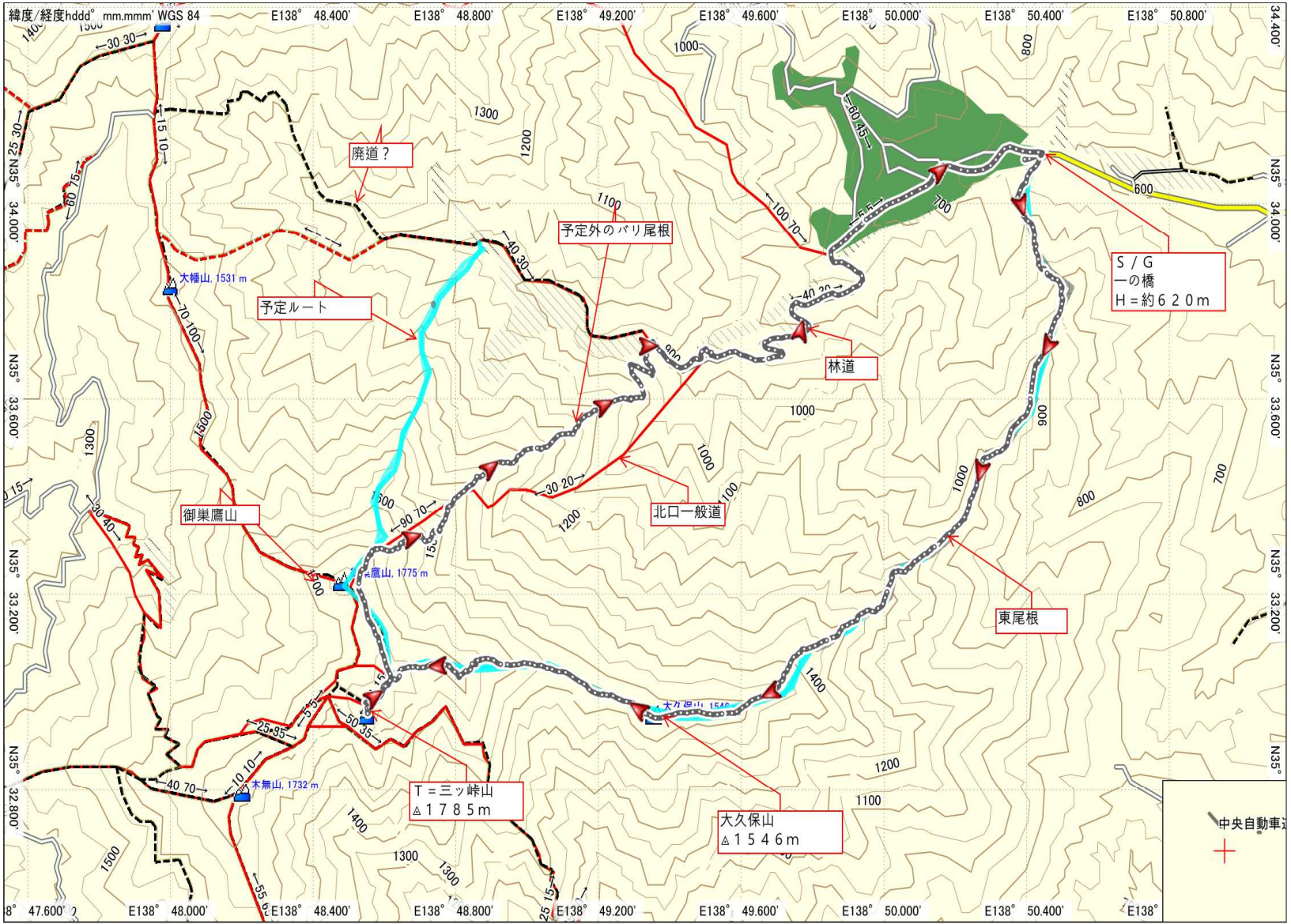
迷わず左に進む。しかし、結果的にこの道は、「水曇山」に行かなかった。何故か不明だが、GPSを見ると、標高1700mで左に行くところを右に下っている。しかし、現地ではルートが全く不明だった。

結局、結果的に北口下山道北の尾根を下っていた。一応、赤布はあったが、一般道ではなかった。しかも、尾根は急峻で厳しいものだった。三ツ峠山の東北面は傾斜がキツイ。加えて昨今、北口は登山者が少ない、道は荒れ放題で不明瞭。

下りきれば大幡川林道に出て北口登山口着。ここから長い林道・車道を経て登山口着。往復8時間。長く厳しい一日だった。



水曇山分岐



Japan Topo 10M Plus V3
CanvasMaple Co., Ltd 2014
Garmin Corporation 1995-2014

2020/10/26 9:32:57

GARMIN